

◆授業のポイント◆

- ・ 実生活と関連付けた場面を設定した授業の工夫
- ・ 目的や条件を考える場면을重視した授業の工夫
- ・ 自分の価値意識をもって他者と考えを交流し、互いに学び合う活動を重視した授業の工夫

# 美術科学習指導案

学 級 2年4組（男子20名 女子20名 計40名）

場 所 第1美術室（3年校舎3階）

授業者 教 諭 岩 崎 美 紀

## 1 題 材 ポスターデザイン

題 材 名 「われら伊敷デザイン事務所」

## 2 題材設定の理由

ポスターとは、伝達すべき内容を一定の紙面や布地に一目でわかるように効果的に表現された視覚的な広告・宣伝媒体である。背景には絵画、イラストレーション、写真が主として用いられ、それにタイトルやメッセージなど印象に残る言葉が記載されているのが一般的だ。これらのポスターは、日常生活の様々な場面で目にすることができる。商品広告や映画、コンサートなどの商業的なものから、選挙や人権といった社会的・公共的なものまであげたら挙げたらきりが無い。中学生にとっても身近なデザインの1つであろう。このような、視覚的效果を生かして発信する、他者に伝えていくという媒体を学習することは、生徒のメディアリテラシーを高め、生活と美術との関連を強く意識させることにつながる。

本校2年生は、基本的に明るく、積極的に制作活動に取り組む生徒が多い。しかし、少数ではあるが人前で発言することや制作することに苦手意識があり、様々な活動が消極的になってしまう生徒もいるのが現状である。既習事項としては1年次に「自分のシンボルマーク」を制作し、目的や条件などを基に表現の構想を練ることや、他者の立場に立って分かりやすさや美しさを考えること、また、今回の授業で活用するアイデアマップ（一連の制作過程を段階毎に分けて1枚の画用紙にまとめた本校独自の取組）の使用方法などについて学習している。

本題材では学級をデザイン事務所と仮定し、中学校生徒会からの依頼という設定で専門部毎の啓発事項のポスターを制作する。このような設定でポスターを制作することで、生徒は実社会の中でデザイナーがデザインを生み出す過程を疑似体験することになり、生活と美術との関連を強く意識することにつながると考えた。指導にあたっては、まず学級の専門部をデザイン事務所内の部署の1つと設定する。各部署が引き受ける啓発事項のテーマが、実際に自分が所属する専門部の啓発事項のテーマとリンクすることで、課題に取り組みやすくした。また、生徒はその中から1人1テーマを選び個人で制作する。学習活動はアイデアマップを通して、掲示場所やイラスト、キャッチコピー、配色など目的や条件ごとに企画会議（グループ会議）を挿みながら課題に取り組む。ここでは、自分の価値意識を構築させながら、目的意識をもって意欲的に他者と学び合うことを目的とする。最後は、ランダムに組んだグループ内で伝えられる立場と伝える立場に分かれて批評とプレゼンテーションを行い、ポスターの視覚的效果を生かして伝えるという目的を再認識させるとともに、生徒のプレゼンテーション能力の育成も図りたい。このように目的や条件と美しさとの調和を考え、発想の内容を繰り返し個とグループで検討しながら具現化していく活動や、作品を通じて他者と考えを交流し、互いのよさを認め合ったり各自が学んだことを共有化したりする活動に取り組むことは、実生活と関連付けた場面で、自分の価値意識をもって他者と考えを交流し、互いに学び合いながら、よりよい考えで表現や鑑賞をしていく力を養うことにつながると考える。そして、作品を通して他者に伝えることの楽しさや難しさを理解させることで、社会に必要な生きる力の育成にもつなげていきたい。

### 3 題材の目標

- (1) ポスターに関心を持ち、目的意識をもって主体的に話し合い活動や表現活動、鑑賞活動を行うことができる。
- (2) 訴えたいことを多くの人々に伝えるために、掲示する場所や形、色彩などの効果を生かして表現の構想を練ることができる。
- (3) 自分の表現意図に合う表現方法を工夫したり、制作の順序など見通しをもったりしながら、創造的に表現することができる。
- (4) 実際に掲示されているポスターや他の生徒の作品を鑑賞し、作者の意図や表現の工夫、ポスターとしての調和のとれた美しさなどを自分の価値意識をもって味わうことができる。

### 4 到達目標問題

到達目標問題	解答例	解答の根拠
あなたはデザイン事務所の社員です。この度、伊敷中学生会から学校生活の改善を促すポスターの制作依頼を受けました。そこで、制作にあたって必要だと思う工夫点を4つ答えなさい。またその根拠も答えなさい。	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 見る人を想定して、効果的な<u>掲示場所</u>を考える。</li> <li>② 伝えたい内容を的確に伝える効果的な<u>キャッチコピー</u>を考える。</li> <li>③ 見る人の心を動かす効果的な<u>イラスト</u>を考える。</li> <li>④ 見る人の目を引くような効果的な<u>配色</u>を考える。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 掲示する場所によって効果が変わるため。</li> <li>② 言葉によって伝わる効果に違いが出るため。</li> <li>③ イラストによって伝わる効果に違いが出るため。</li> <li>④ 配色によって伝わる効果に違いが出るため。</li> </ol>

### 5 題材の指導計画（全8時間）

1 課題の把握と鑑賞 (1時間)	<p>「依頼内容を把握し、個々の制作テーマを決めよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 題材の説明をする。</li> <li>・ グループ内で担当を決定する。</li> </ul>
2 表現の発想・構想 (4時間) (本時4/8)	<p>「掲示場所を意識し、見る人の心を動かすキャッチコピーを考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 効果的な掲示場所について考えグループ内で検討する。</li> <li>・ 実際に使用されているポスターからキャッチコピーの分析をする。</li> <li>・ 効果的なキャッチコピーを考える。</li> </ul>
	<p>「効果的なイラストパーツを考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に使用されているポスターのイラストやレタリングの分析をする。</li> <li>・ キャッチコピーを基にレイアウトに必要なイラストやキャッチコピーのレタリングを考える。</li> </ul>
	<p>「効果的なレイアウトを考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に使用されているポスターのレイアウトの分析をする。</li> <li>・ 前時に考えたイラストとキャッチコピーを組み合わせレイアウトを考える。(本時)</li> </ul>
	<p>「効果的な配色を考えよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に使用されているポスターの配色の分析をする。</li> <li>・ キャッチコピーとイラスト、どちらも目立たせるための効果的な配色を考える。</li> </ul>

3 制作 (2時間)	「依頼されたポスターを制作しよう。」 ・ 本番用紙にこれまでの授業で構築してきたポスターを制作する。
4 鑑賞 (1時間)	「自分のポスターをプレゼンしよう。」 ・ ランダムに6~7名のグループを組み、まず制作者以外の生徒から批評を行い、最後に制作者がポスターのプレゼンテーションを行う。

## 6 題材における評価規準

美術への関心 ・ 意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
<b>表現</b> 美術の創造活動の喜びを味わい、目的や場所、形、色彩などの条件を考えて表現することに関心を持ち、主体的に造形的な美しさなどを総合的に考えて構想を練ったり表現しようとしていたりしている。	感性や想像力を働かせて、掲示する場所や形、色彩の効果を生かして造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練っている。	感性や造形感覚などを働かせて、自分の表現意図に合う表現方法を工夫したり、制作の順序など見通しをもったりしながら、創造的に表現している。	感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の意図と創造的な表現の工夫、目的と美しさの調和などを友達との交流を通して、感じ取り味わったり、生活を美しく豊かにする美術の働きについての理解や見方を深めたりしている。
<b>鑑賞</b> ポスターを鑑賞することで、美術の創造活動の喜びを味わい、生活を美しく豊かにする美術の働きに関心を持ち、主体的に見方や理解を深めようとしている。			

## 7 本時の実際 (4/8)

### (1) 目標

- ア 目的意識をもって、意欲的にグループで意見を交流し、効果的なレイアウトに生かすことができる。
- イ 他者の意見を参考にしつつも、自分の価値意識をもってイラスト(デザイン)の構想を練ることができる。

### (2) 授業設計の工夫

#### ア 実生活と関連付けた場面を設定した授業の工夫

実生活を想定し、互いに学び合うことができる学習活動を行うために、目的や条件を考える場面で自分の価値意識と目的意識をもって意欲的に他者と考えを交流し、実生活を関連付けた「題材を貫く学習のめあて」を設定する。 **研究の視点1**

#### イ 目的や条件を考える場면을重視した授業の工夫

ポスター制作に必要な過程を生徒に理解させるために、アイデアマップを活用し学習活動を目的や条件ごとに効果的なレイアウトを考える場面を設定する。

#### ウ 自分の価値意識をもって他者と考えを交流し、互いに学び合う学習活動の工夫

自分の価値意識を構築するために個でじっくり練り上げさせ、その後、他者と考えを交流し、学び合う活動としてレイアウトの企画会議を行う。そこでお互いに作品のプレゼンテーションを行い、デザインが目的や条件に合っているかをグループ内で検討させる。 **研究の視点2**

(3) 展開

過程	時間形態	主な学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫
導入	10分 一斉	<p>〈題材を貫く学習のめあて〉 学校生活をよりよくするために効果的な、心を動かすポスターを制作しよう。</p> <p>1 前回の授業を振り返り、本時の学習を確認する。</p>	<p>○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫</p> <p><b>研究の視点1</b></p> <p>※ 実生活を想定した「題材を貫く学習のめあて」を提示する。 ○ アイデアマップで本時の活動を確認させる。</p>
		<p>〈学習目標〉 効果的なレイアウトを考えよう。</p>	<p><b>研究の視点2</b></p> <p>※ 目的や条件に応じた学習目標を提示する。</p>
展開	3分 個	2 前時に分析したポスターの特徴を確認する。	<p>○ ポスターの特徴を発表させることで制作ポイントに気付かせる。</p> <p>制作のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・見る人の印象に残るか</li> <li>・伝えたいことが一瞬で伝わるか</li> <li>・好感を得られるか</li> </ul>
	10分 個	3 キャッチコピーとイラストパーツを基に、レイアウトの構想を練る。	<p>○ 前時に作成したキャッチコピーとイラストパーツを組み合わせて構想を練らす。また、その意図も記入させる。</p> <p>◎ 自分なりに考え、目的意識をもってレイアウトの構想を練っている。</p> <p>○ 各グループで企画会議をさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各自で制作したレイアウトについての意見交換を行わせる。</li> </ul> <p>※ レイアウト企画会議を行う。</p>
	12分 グループ	4 企画会議を行う。	<p>企画会議の流れ（1人2分間）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 自分のレイアウトのプレゼンテーションを行う。（30秒）</li> <li>② 質疑応答（友達から質問やアドバイスを受ける）（60秒）</li> <li>③ 質疑応答の内容をアイデアマップにまとめる。（30秒）（次の人へ）</li> </ol> <p><b>研究の視点3</b></p> <p>※ 自分の作品のプレゼンテーションを行う。<b>研究の視点3</b></p> <p>◎ 意欲的に話し合いに参加している。</p>
	8分 個	5 レイアウトの構想を再度練る。	<p>○ 企画会議で出た意見を参考に、各自でレイアウトの構想を再度練らす。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の価値意識や思いも大切にしよう声かけをする。</li> </ul> <p>◎ 他者の意見を参考にしつつも、自分の価値意識をもって再度レイアウトの構想を練っている。</p>
	4分 一斉	6 代表者がレイアウトを発表する。	<p>○ 教師が机間巡視でデザインがよりよく変化した生徒を数名選び、代表で発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書画カメラを使用する。</li> </ul>
終末	3分 個 一斉	7 本時を感想、気づいた点や新しい発見などを記入する。 8 次回の説明を聞く。	<p>○ 本時の感想をアイデアマップに記入させる。</p> <p>○ 次回の説明をする。</p>